

## JAS Information

## 「オーディオ・ホームシアター展 2014」 終了報告

10月17日(金)から10月19日(日)開催致しました「オーディオ・ホームシアター展 2014」は好天にも恵まれ盛況のうちに無事終えることができました。関係者一同、心から感謝を申し上げます。

今年は、国内オーディオ市場の再構築の切り札として「ハイレゾリューション・オーディオ」普及元年と位置付け、徹底した情報発信の場とさせて頂きました。

出展社数は、お台場での開催2年目、また、ハイレゾをテーマに掲げたこともあり、2000年台に入っ最高92社となりました。(過去最高は1998年の94社)

多くの展示に加え、オーディオ協会ならではの情報発信として過去最高の44回のセミナーを開催し、全体のテーマである「ハイレゾリューション・オーディオ」の技術提案と試聴を徹底するため、協会テーマコーナーでのユースケース提案を行いました。また、山之内正氏による基調講演では海外からもゲストスピーカーを迎えるなど、世界のハイレゾ最新情報のプレゼンテーションと試聴実施は圧倒的な支持を得ることが出来ました。さらに、ハイレゾに対するコンテンツ制作現場とのシンポジュームの開催や、3年目となった「ブルーレイ・ディスク<sup>TM</sup>オーディオ」の新作発表の試聴会と会場内の特別販売は多くのマニアの方々にも受け入れられ、会場でのBDソフト売上も前年比2割アップで且つ構成比は40%と大幅な拡販となりました。高品質で感性価値の高い音楽試聴の波が起きていることを証明できたものと考えます。

全体の入場者数は20,200人(対前年比112.8%)となり、目標の20,000人を超えることができました。入場者の特徴点は、①年代層の若返りが明らかになったこと。②女性層の増大がみられたこと、③音楽嗜好ではロック、Jポップが増えたことなどが

挙げられます。

これらのことは、試聴会、公開収録、ライブ演奏会などからも確実に変化の波を起していることが理解できるものでした。

展示会レポートは本号に特集しましたので参照頂きたいと思いますが、今後、アンケート及び出口調査などを詳細にマーケティング分析し、ご報告させて頂くと共に、主催者として課題については引き続き改善に努めていく所存です。

なお、以下に開会式、及び基調講演の写真を添えておきます。



開会式テープカット(写真右から中川実行委員長、電波新聞社 平山社長、経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課 三浦課長、日本オーディオ協会 校条会長)



山之内氏基調講演：世界の最新ハイレゾ事情